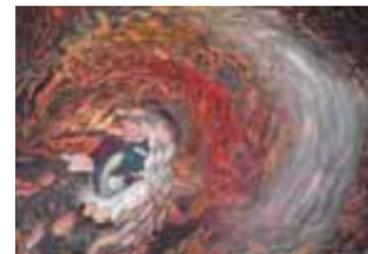


独自の視点で自然を捉える



第60回連盟展で連盟賞

奥平 元二さん 78歳
小相木町



群馬美術家連盟の第60回連盟展で、洋画、日本画、建築、ジュニア4部門722作品の中から最高賞の連盟賞に輝いた。

「連盟展の応募は4回目。今までも入賞したことはありますが、最高賞は初めてです。思いがけない受賞で身に余る光栄です」

受賞作は「葉紋」。渦の中心が無数の世界につながっているような奥深さと、赤色を効果的に使った美しい色彩が評価された。

「川辺を散策していたときに、落ち葉が魚の回遊に巻き込まれ、渦を巻く様子を目にしました。水面にできる波紋が面白く、その様子を題材にして描きました」

小さい頃から絵を描くのは好きだったが、本格的に水彩画を描き始めたのは定年後。

「先輩に誘われて、老人福祉センターで開催されていた水彩画教室に入っただけなのに、あっという間に運命の出会いですね」

絵画のほかにも、フルートや尺八などの楽器にも親しみ、さまざまな趣味を楽しんでいる。

「今は絵を描くことが生活の中心。いつも応援してくれている先生や家族に、感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、いろいろな作品に取り組んでいきたいですね」

いつまでも旺盛な好奇心で、素晴らしい作品を描き続けてほしい。

見たい

知りたい

伝え隊

今回のテーマ
「るなばあく」



日本一懐かしい遊園地・るなばあく。前橋市中央児童遊園地として昭和29年に開園して以来、前橋で生まれ育った人なら誰でも知っている、そして市民に愛され続けている遊園地です。

るなばあくの名前の由来は詩人・萩原朔太郎の詩「遊園地にて」。平成16年に民間に運営を委託した際、愛称を募集して決まりました。

前橋城の堀だった場所に作られたこの遊園地の広さは8,800平方メートル。堀の上から全体が見渡すことができるほどコンパクトな敷地ですが、休日は大勢の家族連れで園内がいっぱいになっていきます。

園内には、国の登録有形文化財のもくば館をはじめ、ひこうとうやウェーブス

みんなの声

小さい子も楽しんで乗れる物が多いので、るなばあくみたいな場所がもっとあればいいなと思っています。

（笠井美加さん・荒牧町四丁目）
親がよく連れて行ってってくれてうれしかったですね。今でも気軽に行けるので、わたしの子どもも気に入っています。

（阿部英明さん・六供町）
幼い頃に行ったときのことが今でも鮮明に思い出せます。ひこうとうに乗ったときは高くて少し怖かったけど、うれしかったです。

（仙田さくのさん・上大屋町）

今回のテーマは、「絹」。養蚕や絹製品にまつわる思い出などのエピソードをお待ちしています。8月4日(木)までに、住所・氏名、電話番号を記入し、市役所市政発信課「見たい知りたい伝え隊」係へハガキかEメール (shiseihassin@city.maebashi.gunma.jp) へ

クローズアップ



地域づくりが一つに集結

6月26日、総合福祉会館で地域づくり交流フェスタを開催。地域づくりの輪を広げることを目的に行われ、ことしで5回目。各地区から参加した人たちは、安全安心や福祉、食などをテーマにした特色ある地域活動の紹介や情報交換などにより交流を深めました。



みんなの力で大花壇が完成

7月2日、群馬デスティネーションキャンペーンに合わせて、前橋公園で大花壇作りを行いました。市民ボランティアなど総勢119人が集まり、直径30mの花壇にポーチュラカの苗を植え付け。色とりどりの花々が、訪れる人たちを楽しませてくれます。



異文化交流で理解を深める

6月24日、春日中でマイクロネシアの子どもたちとの交流会を実施。学校農園でのジャガイモ掘りに続き、体育館でだんべえ踊りやマイクロネシアの伝統芸能を披露しました。参加した子どもたちは、お互いの文化を学び、楽しい思い出を作りました。



築地で前橋産農産物をアピール

7月8日、東京都中央卸売市場築地市場でトップセールスを行いました。塩ゆでした枝豆などの試食品の配布に続き、高木市長自ら競り台に立ち、おいしくて安全安心な本市産農産物をアピールし、販売促進と知名度の向上を図りました。